

「文化」を担う

校長 高橋泰幸

部活動を大別するとき、私たちは普通に文化部・体育部という言い方をする。何の疑いもなく使う「文化部」という言葉。しかし、そもそも「文化」とはいったい何なのか。ちよつとその語源をひもといてみよう。

英語でいうと「文化」は *culture* だが、もともとはギリシャ語で「耕す」という意味の言葉だった。ただし、その「耕す」対象は土地だけにとどまらない。頭脳を耕し、肉体を耕す。つまり、教養を身につけ、身体を鍛えるという意味を含んでいた。ちなみにギリシャでは、労働と肉体と精神、この三つがバランスよく備わることが人間の理想とされたが、それが崩れたとき、文化のみならずギリシャという国家そのものが衰退の道を辿ることとなった。

さて、^{ひろがえ}翻つてわが日本。「文化」という言葉が一般化・大衆化したきっかけは、昭和二十三年の「文化の日」制定にある——と私は思っている。その二年前、日本政府は新憲法発布の十一月三日を記念して文化の日とした。戦後の復興とともに新しい日本と文化を築こうとした熱い日本人の心が、「文化の日」には込められている。

経済大国と呼ばれて久しい日本だが、残念ながら文化大国と呼ばれたことはない。しかし、「文化」を築こうという思いは連綿と受け継がれている。たとえば、短歌・俳句、茶華道、歌舞伎、邦楽、日本画といった我が国固有の伝統文化から、新幹線や自動車といった科学技術・モノづくりの文化、寿司や懐石料理に代表される和食文化、西洋の音楽を受容し本家をもしのぐクラシックに至るまで、日本人の「文化」活動のレベルは世界の舞台でも決して引けをとらない。

一般的に、「文化」とはこのような芸術・科学・学問などの精神的活動とその成果を指し、肉体的パフォーマンスを「体育（スポーツ）」と呼んで区別する。文化部・体育部という区分もこれと同じだ。しかし、ギリシャ語の語源もそうであったように、「文化」の意味はもつと幅広い。実は対義語として使う「体育」も、「文化」の中に含まれる。

たとえば剣道はまさしく日本の伝統文化であるし、フェンシングは欧州騎士道文化の遺産。また、日本の野球とアメリカのベースボールのプレースタイルは、同じ競技ながらそれぞれの国の文化を色濃く反映する。スポーツは間違いなく人間が作り出した「文化」そのものなのである。

「文化」とはすなわち、人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体である。そして、君たち南高生の日々の学習や部活動、あるいは生徒会や学校行事として行っている様々な実践も、実は「文化」を築き上げるための尊い努力に他ならない。

南高の部活動加入率は90%を超え、全国的に見ても進学校としては異例の高さを誇る。また、たとえばビブリオバトルやポスターセッションなど、部活以外の活動バリエーションも実に豊かである。南高生の持つ「文化の担い手」としてのパワーは明白だ。今後君たち一人一人が、どのような分野で、どのような努力をして「文化」に貢献するのか。とても楽しみである。